

平成22年度第3回都市経営会議

日時 平成22年5月24日（月）13:15～14:00

会場 市長応接室

参集者 西尾市長 谷澤副市長 小柏副市長 多賀谷教育長 中林水道局長
渡辺企画部長 上戸総務部長 片岡財務部長

議題(1) 函館市温泉資源保護指針(案)について

◎対応 山田保健所長 辻保健所参事 佐藤保健企画課長 保古生活衛生課長
鈴木観光コンベンション部長

◆ 議題の趣旨 ◆

函館市温泉資源保護指針策定のため、本年1月から2月にかけてその素案についてパブリックコメントを実施し、同時に市議会民生常任委員会に諮りました。それらを踏まえてまとめた最終案の内容について協議を行いました。

◆ 協議の結果 ◆

最終案については了承されました。

◆ おもな意見 ◆

■ 辻保健所参事

パブリックコメントは概ね賛同するというご意見を5件いただいた。その後民生常任委員会に諮り、素案を修正した。対象となる地域については、「東部4支所の所管区域を除く区域」とわかりやすく表現した。また素案では温泉法の所管を北海道として表記していたが、北海道の権限は温泉法に基づく掘削許可等の権限であるため、正確な表現に修正した。さらに対象とする3つの温泉群について「横津銭亀沢温泉群」などの名称は、指針上で市として独自に付したものであることを明らかにし、また普通浴場の問題点に関する表現を簡素化したことなどが主な修正点となっている。

■ 小柏副市長

民生常任委員会からはどのような意見を受けたのか。

■ 辻保健所参事

情報の発信に関して、近隣自治体にも行うべきという意見を受け、表現を加えた。

■ 西尾市長

普通浴場に関する細かな表現を省いたのはなぜか。

■ 辻保健所参事

4月に施行した普通浴場の確保を図るための指針のなかで、普通浴場の規模を明確にしたことから、重複を避けるために削除した。

■ 西尾市長

湯の川の温泉の水位は監視しているのか。

■ 中林水道局長

個人の所有部分については調査していないが、市の管理しているものについては調査している。しかしすぐに変化が現れるというものではない。

■ 西尾市長

ここ2～3年の推移を見て落ちているとなれば、個人所有のものについても抑制するように要請する必要があるのではないか。

■ 中林水道局長

それは依頼することになる。

■ 谷澤副市長

新規の開発は抑えるということだ。

■ 西尾市長

指針(案)については了解した。

議 題(2) 事業仕分け(外部評価)の実施について

◎対 応 小林総務部行政改革課長 嶽本主査

◆ 議題の趣旨 ◆

函館市行財政改革新5か年計画では、「事業仕分けによる事務事業の見直し」として第三者評価を取り入れた事業仕分けを行うこととしております。

これに先だって平成20年度には全庁的な内部評価を行っていますが、今年度はその中から20事業程度を抽出し、外部評価を行うこととしており、その概要について協議を行いました。

◆ 協議の結果 ◆

外部評価の実施概要については了承されました。

◆ おもな意見 ◆

■ 小林行政改革課長

平成20年度に行った内部評価において民営化や委託化を行うべき、あるいは改善すべきものと位置づけられた約200事業の中から、20事業程度を抽出して実施したい。国でも事業仕分けを実施しているが、拙速な判断を避け、十分に議論をしていただくという主旨から、事業説明および質疑応答と評価は別の日に行う。会議は公開としたい。委員会として総合評価の調整が困難な場合は、複数の意見を評価に代えることとしたい。評価結果は所管部局にフィードバックし、最終的には都市経営会議等で市の方針を決定し、公表したい。

■ 小柏副市長

国でやっているものと同じではなく、一つずつじっくり協議して進めていきたい。

■ 西尾市長

試行錯誤的にやってみるのはよいと思う。政策的なものは価値観によって判断が分かれるので難しい。地方自治体の業務を仕分けするというのは難しいと思う。事業評価も何度か試行したがうまくいかなかった。

たとえば社会教育事業について民間でやっている講座と市がやっている講座が重複しているからといって、それでいらないとはならないのではないか。また、20項目を選択することも難しいのではないか。

■ 小柏副市長

一度やってみて、委員会で検証してもらいたいと考えている。

■ 西尾市長

「事業仕分け」という名称をやめ、「事業外部評価」などにしたらどうか。国の事業は国民に見えにくいので仕分けが必要であり、評価もわかりやすいが、地方の事業は住民密着型であり、一人のためのものでも必要だと評価すべきものもある。価値観は分かれるところで非常に難しい。

■ 小柏副市長

湯の川の海水浴場も大きな経費をかけてやっているが、こういう機会がなければ、市民には見えない。

■ 西尾市長

確かに1日100万円相当かかっている。しかしそれによって水死事故がなくなったのも事実であり、価値観の違いで評価が分かれるだろう。

■ 小柏副市長

中核市では行政評価は皆やっている。確かに試行錯誤になるが、見せるという視点が大切だと思う。

■西尾市長

それぞれの部局の事務量が増えないよう、予算要求や重点推進事項など統一した様式を考えてほしい。この評価を行うにあたっては同じシートでやればよいと思う。資料も必要以上に求めない方がよいと思う。

■小柏副市長

様式は統一した方向に近づきつつある。

■片岡財務部長

予算要求資料も、シーリングなどを行っていることから、ボリュームはそれほどではなくなっている。

■西尾市長

かつてはすごい事務量だった。現場からはいろいろな苦情も聞こえている。

■小林行政改革課長

企画と財政は共通書式になってきているが、企画、総務、財務で検討したい。

■小柏副市長

それぞれの役割が違い、視点も違うからよく協議が必要だ。共通様式にこだわるあまり、使いにくいものになるようでは意味がない。

■西尾市長

事業仕分けの概要については了解した。